

# Web Usability & Accessibility

10 宮内庁サイト



アクセシビリティ分析担当  
**濱田英雄**  
(株)ユーディット 主任研究員  
hamada@udit-jp.com



ユーザビリティ分析担当  
**石田直子**  
(株)ユーディット 研究員  
naoko@udit-jp.com

(株)ユーディット

URL <http://www.udit-jp.com>

「情報のユニバーサルデザイン」を目指し、アクセシブルなWebの制作やコンサルティング、高齢者や障害者も利用できるユニバーサルデザインの情報環境、製品の調査などを行っている

## サイトの目的と内容をテキスト化する場合の注意と対策

暗い話題が多かった2001年だったが、そのなかで皇孫殿下御誕生のニュースは、新年に向けた吉兆として、ネット上でも好意的に受け止められている。皇室活動や皇室の文化などを紹介する「宮内庁」サイトへのアクセスも急増した。「開かれた皇室」の玄関口といえる同庁サイトを訪問し、濱田・石田両氏が「ユーザビリティ&アクセシビリティ」を検診する。

### トップページで目的と内容を明快に!

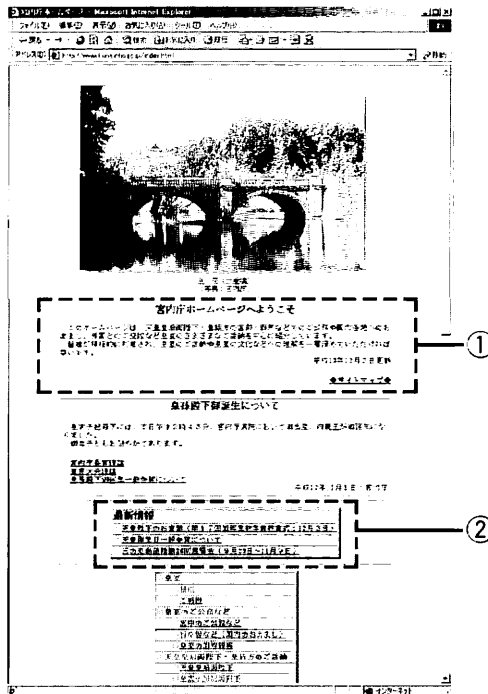
外見的にはユーザビリティに気を配っているトップページでも、掲載内容がユーザーに理解できなければ意味がありません。サイトの「目的」と「内容」を「適切なカテゴリ」に「適切な言葉」で表示するために、今回は内容と目的について考えてみます。

サイトの目的とは、何を伝えたくてWebサイトを設けているかです。サイト制作当初から目的を明確にしておかないと表現も曖昧になります。宮内庁サイトでは目的にあたる文章がトップページに載っています。ここでは「宮内庁の情報」ではなく、「皇族の活動中心に紹介」となっており、目的がより明確です。目的は文章でなくても、タイトルや目次で表現することもできます。

サイトの内容は、より具体的な掲載内容となります。これは多くが目次として表現されます。目次項目だけではなく、サイトのオリジナルな部分を少しでも表現できるよう、短い説明などを付けるとより伝わります。ただし、長い説明は逆効果です。宮内庁の内容はリストが長すぎて伝わりにくくなっています。たとえば「伝統文化」はタイトルだけにし、簡単な説明をつけて、詳細リンクは次のページに載せたほうがよいでしょう。

ユーザビリティでは「3秒ルール」が有名です。ページに書かれた目的と内容が3秒で伝わらなければ、ストレスを感じるというものです。トップページがストレスフルにならないよう、この2つがすぐに伝わるようなコンテンツ作りを心がけましょう。

図1 <http://www.mofa.go.jp>



### ユーザビリティ総合評価 ★★★☆☆

一〇コメント 内容は分類されていますので、ヘッダやトップページの見せ方を変えるだけで、驚くほどわかりやすくなるでしょう。

### アクセシビリティ総合評価 ★★★★★

一〇コメント それほど問題点はありませんが、ちょっとシンプルすぎる気がします。

### アクセシブルなWeb制作に欠かせぬチェックツール

今回はアクセシブルなWeb制作のためのチェックツールを紹介します。宮内庁のように大半がテキストというページはアクセシビリティ上の問題がないように思われますが、チェックをかけてみると、意外と問題点があることがわかります。

#### ●IBM「i-Checker V.1.0」

<http://www-6.ibm.com/jp/accessibility/webaccess/i-checker.html>

このチェッカーは以下の4つの代表的な項目をチェックしています。最低このチェッカーは通るように制作しましょう。

1. 画像リンクにALT属性が書かれているか。
2. タイトル情報の有無をチェック。
3. クライアントサイド・イメージマップのALT属性の有無をチェック。
4. サーバーサイド・イメージマップが使用されている場合の警告。

総務省では、2001年度から「みんなのWeb」にある支援システム(J-WAS)を使い、アクセシビリティを改善する実証実験を行っています。

#### ●J-WAS <http://www.jwas.gr.jp/>

#### ●CAST「Bobby 3.2」

英語版のアクセシビリティチェッカーです。かなり厳しくチェックしてくれます。

<http://www.cast.org/bobby/>

#### ●「Another HTML-lint gateway」

正しい文法で書くことはアクセシビリティ向上に繋がります。ここではHTML文書の文法をチェック、採点します。解説もあるので、一度チェックしてみると良いでしょう。

<http://openlab.ring.gr.jp/k16/htmlint/htmlint.html>

ちなみに宮内庁のトップページをチェックしたところ、「161個のエラーがありました。このHTMLは-38点です。タグが18種類332組使われています」との回答でした。

## ユーザビリティについて (解説/石田直子)

### ユーザーにサイトの目的が伝わること ★★★★★

トップページに書かれている「宮内庁ホームページへようこそ」(図1-①)以下の文章が、サイトの目的や内容を端的に表しています。こうした文章はスペースの余裕やページの性格によって使い分けが必要がありますが、ユーザーへの挨拶という意味もあり、ここでは好印象を与えています。

### 全体像がトップページで把握できること ★★

サイトの訪問者は、トップページを見て全体像を頭に描き、これを地図としてナビゲーションしていきます。つまりトップページが把握しにくいと、地図がないまま内部を見ていくことになってしまうのです。宮内庁のトップはサイトの目次となる項目はありますが、分量が多いです。ストレスをあまり感じずに見ることのできる量は長くてもスクロール1回分(画面サイズの2倍程度)です。

### デザインや構成が統一されていること ★★

トップページから一つ奥のページに入ると、どのページにもヘッダにあたるエリアがありません(図2)。そのため一度奥のページへ入るとサイト内のどこにいるのか、宮内庁のサイト内にいることさえわからなくなります。デザインはシンプルですが、統一されてなく、必要なものも省かれており、物足りないほどの印象さえ受けてしまいます。

### 必要な情報が適切な場所にあること ★★

皇室の構成を開くと、ここだけ大目次がフレームで表示されます(図3)。大目次としては分量が多すぎるとは思いますが、サイト全体はこの大目次が常時表示されることが前提として作られているような気がします。

「最新情報」に、「第26回展覧会「宮中の調度一棚と棚飾り」」(図1-②)がありますが、日付を見た限り、9月からの開催となっているため、情報としての鮮度が感じられません(該当ページを見ると、この告知は後期開催分のもつと予測できます)。

ところで皇室関連の用語には、「御壺」など読み方がわかりにくいものも多いようです。これらにふりがなや解説をつけるのも、ホームページの役割として重要でしょう。

### 次の動作がわかりやすいこと ★★★★★

各ページの最後には「HOME」、写真のページからは「掲載お写真の本文ページへ戻る」というようにルートが示されています(図4-①)。ナビゲーションエリアはありませんが、これらのボタンで一応の操作はできるようになっています。

### 予想されたフィードバックが返ってくること ★★

ページによっては「戻る」ボタンがあります(図2-①)。そのページの親にあたるページや、ページがどのカテゴリに属しているかが明示的であれば、このボタンは「一つ上に戻る」と解釈できます。しかし、このサイトでは親ページが一見ただけではわからないので、どこに戻るのかわかりません。とくにトップページから直接リンクが張られている場合、「戻る」を押すと予想されないページへ戻ることとなります。

図2

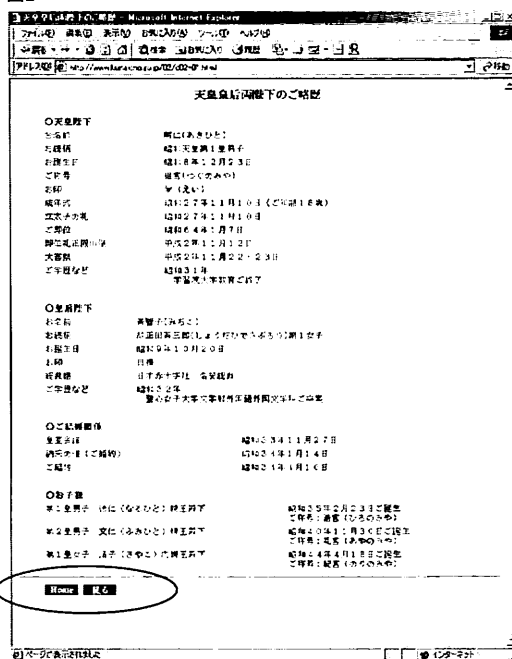


図3

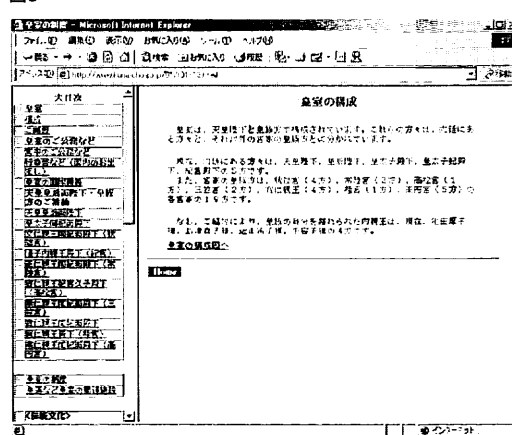


図4

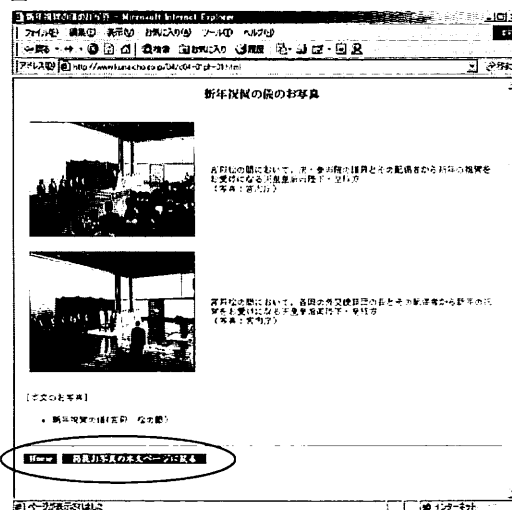


図6 <http://www.kunaicho.go.jp/01/f01-13.html>

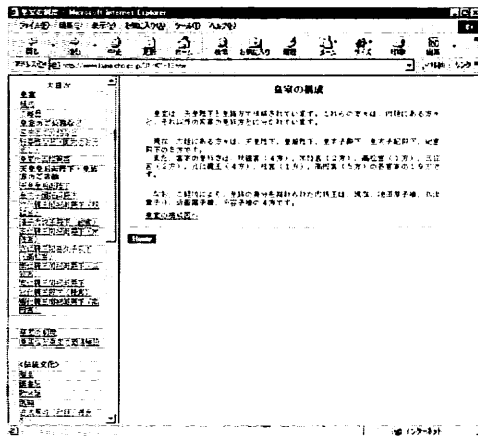


図7 <http://www.kunaicho.go.jp/kohosiryu/kohosiryu02.html>

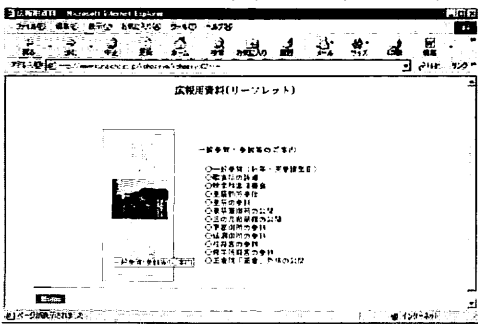


図8 <http://www.kunaicho.go.jp/koutaishi/okotobah13.html>

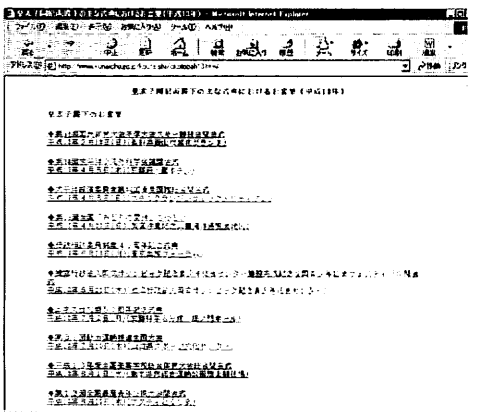
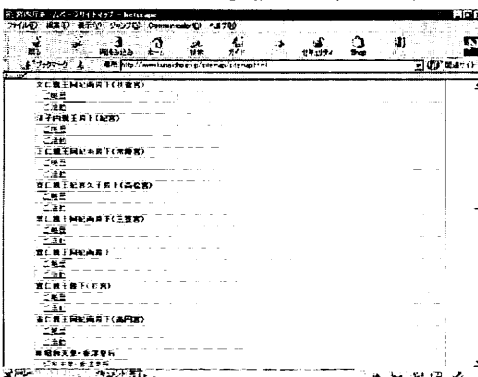


図9 <http://www.kunaicho.go.jp/sitemap/sitemap.html>



## アクセシビリティについて (解説/濱田英雄)

### 画像にはALT属性をつけること

★★★★★

一部ALT属性のつけ方に問題点もありますが、おおむね良いと思います。

### 外国語の乱用はしないこと

★★★★★

カタカナ言葉はありませんが、逆に難しい漢字は多いようです。一応用語の説明があるので良いでしょう。

### <title>タグは的確につけること

★★★

同じ<title>をつけている箇所があります。

### 背景と文字色はコントラストがあること

★★★★★

背景画像が使われていますが、それほど問題はないと思います。

### フレームの使用は必要最小限にすること

★★★★★

一部、疑問のフレームが使用されています。

### 新しい技術には代替手段を用意すること

★★★★★

使われていないようです。

### その他

#### [トップページ] (図5)

##### ●本文の長さについて

なぜこのような長いトップページになっているのか良くわかりません。マウスを操作してのスクロールが難しい人がいることを考慮して、デザインを変えるなど全体を短くする工夫が必要です。一般の人にとっても、内容を早く把握するのに有効だと思います。

##### ●フォントの指定について

このサイトでは、本文が「MS明朝/平成明朝」に指定されています。明朝体は横線が細く、背景画像のある状態では読みやすいといえませんが、部分的に使うと効果的かも知れませんが、基本的にフォントの指定はせず、見る人の選択に任せる方が良いでしょう。

#### [皇室の構成] (図6)

##### ●フレームの使い方について

このページに来ると、いきなりフレーム構成になり、トップページと同じメニューが出てきます。ところが、左のメニューをクリックすると、また全画面になり、何のためのフレームだったのか良くわかりません。全体の統一からいって、ここでトップページと同じメニューを表示したり、フレームを使う必要はないと思います。

#### [広報用資料(リーフレット)] (図7)

##### ●ALT属性のつけ方

左のパンフレット画像に「一般参賀・参観等のご案内」というALT属性がつけられていますが、隣にも同じ言葉のテキストがあるので、音声ブラウザでは2度繰り返して読むことになります。この場合は、「リーフレットの写真」などと、内容の説明ではなく、画像の説明にした方が良いでしょう。

#### [皇太子同妃両殿下の主な式典におけるお言葉(平成13年)] (図8)

##### ●テキストリンクのつけ方(1)

このページは全文がリンクになっています。音声ブラウザには、本文を読まずにリンク先だけを読み上げる便利な機能があります。日付やカッコ内はリンクをつけずに、テキストリンクはシンプルにする方が良いでしょう。デザイン的にも見やすくなる気がします。

#### [宮内庁ホームページサイトマップ] (図9)

##### ●テキストリンクのつけ方(2)

上記とは逆にテキストリンクに「ご略歴」「ご活動」が並んでいます。リンクの読み上げ機能では、誰の説明なのかわかりません。この場合はテキストリンクに名前を追加するなどの配慮が必要です。

図5

